

何かと話題のアベノミクスではあるが、安倍首相がこの度その「成長戦略スピーチ」において「女性が輝く未来」と題し、女性の地位向上や、待機児童解消の加速化、さらに育児休暇の充実と育休後の社会復帰にも言及した上で、子供を「3年間抱っこし放題」などと述べ、思わずプツと吹き出してしまった。3年間も休んで本当に復帰出来るのか疑問だし、女性にだけ育児を任せようとしてるようで、いかにも“大風呂敷”でウサン臭い。

しかし実は、理化学研究所の黒田公美氏による最近の実験によれば、「母親が抱いて歩くと、赤ちゃんがリラックスする」ことが判明し、興味深い。抱っこして歩き始めると約3秒後に赤ちゃんの心拍数がずっと低下し、泣く時間も、手足をばたつかせるなどの動きも、明らかに減ったという。しかも父親でも同様の結果が得られたというから驚きだ。「親が子を運ぶとおとなしくなる」現象は、ネコやライオンなど他の哺乳動物でも知られているが、どうやら“種明かし”をすれば、それは「抱っこ」ではなく「運ぶ」ことにあるらしい。なるほど！

**「神は、羊飼いのように群れの世話をします。子羊を抱いて運び、
子連れの雌羊を優しく導くのです。」 イザヤ書 40 章 11 節 L B、**

とはそういう意味だったのか、と思わず膝を打った。今までは自分で歩かせれば良いものを、わざわざ子羊を担ぎ上げ抱いて運ぶことの意味がピンと来なかったがこれでハッキリした。創造主であり救い主である神は、徹底的にスキンシップで我々人間一人ひとりの面倒を見て愛を注いで下さるのだ。その立役者であるキリストを仰ぎ、自分の罪を悔い改めた時、人は聖霊を心に迎え平安を得ることが出来る。神を信じるというのは、彼に「抱っこ」して貰い、平安を得て、リラックスすることだ。

2013-6-26

